

# 第4次 中川区 地域福祉活動計画

2019年度～2023年度



概要版

# 第4次 中川区地域福祉

## 理念

和輪話わっ!!とみんなのでつくろう支えあいのまち

## 基本目標

A

みんなが  
役割を持って  
つながれるまち

B

みんなが  
認め合えるまち

C

みんなが健康で  
安全に、安心して  
暮らせるまち

## 3つの柱

### 第1の柱

『地域の応援団』づくり



### 第2の柱

『地域のえんがわ』づくり



### 第3の柱

『福祉専門職の  
プラットフォーム』づくり



# 活動計画

# 体系図

## 実施項目

### 実施項目 1

#### 『地域の応援団』 バンクの運営

地域活動や福祉活動を通じて“人と人がつながる”ことを応援します。また、ご協力いただける個人・法人を把握し、啓発活動から個人の生活上の困りごと解決ボランティア活動まで、広く活躍のフィールドを用意します。

### 実施項目 2

#### 『応援団』の 地域交流会の開催

お住まいの地域の中で、『地域の応援団』バンクにて把握した協力者、地域ボランティア等が交流を深めるとともに、よりいっそう住みよい地域となるよう、今日的な福祉課題からご近所でよくある困りごとまで共通理解できる機会をつくります。

### 実施項目 3

#### セカンドステージ セミナーの開催

住み慣れた地域で、これまでの知識や経験を地域に活かし、いきいきとしたセカンドステージを過ごせるようセミナーを開催します。セミナー参加者にボランティア活動や地域活動の経験の有無に関わらず、参加いただけるように情報提供を行います。

### 実施項目 4

#### 誰でも気軽に 立ち寄れる オープンカフェづくり

多世代交流・地域交流・福祉学習など目的別、福祉施設・商業施設・テントなど会場別の多様な集いの場を地域の皆さまに提案し、想いを受け止められる場を作ります。また、子育て、健康や介護予防、障がいなどの福祉に関する話題の他、防災・防犯など暮らしに必要な情報提供を行います。

### 実施項目 5

#### ふれあい・いきいき サロンの支援

住民主体で行うサロン<sup>(\*1)</sup> 実践者の交流会を開催し、誰もが気軽に参加できるサロンの活性化を図るとともに、サロン実践者の意見などを参考にさらなる普及啓発を図ります。また、ボランティアや専門職による相談なども、要望に応じて調整します。

### 実施項目 6

#### 福祉専門職が 連携できる 環境づくりと協働

区内の児童・障がい・高齢分野などの専門職が会し、生活困窮、ダブルケア<sup>(\*2)</sup>、8050問題<sup>(\*3)</sup>など単一分野では解決できない問題について学び、円滑な連携を図ります。また、協働により住民から多様な福祉相談に応じられるような仕組みづくりを進めます。

(\*1) サ ロ ン：「ふれあい・いきいきサロン」の略称。「地域のたまり場」とも呼ばれ、コミュニティセンターや団地の集会所など身近な地域で、住民等が中心となり定期的に開催。

(\*2) ダブルケア：子育てと親の介護の両方に直面する状態。育児と介護を同時期に担うことで、育児と介護の両方の責任や負担が重なること。

(\*3) 8050問題：ひきこもりの長期化、高齢化から引き起こされる社会問題。主に50代前後のひきこもりの子どもを80代前後の親が養っている状態。

## 実施項目1 『地域の応援団』バンクの運営



地域活動や福祉活動を通じて“人と人がつながる”ことを応援します。また、ご協力いただける個人・法人を把握し、啓発活動から個人の生活上の困りごと解決ボランティア活動まで、広く活躍のフィールドを用意します。

### 👉 ステップ①

すでに地域活動やボランティア活動を行っている方、新たにセミナー・講座等を受ける方等を含めた、地域の様々な層に向けて機会をとらえて啓発活動を行い、『地域の応援団』への関心・理解を深める。

### 👉 ステップ②

協力してもらえる方、地域のために行動したいという意思のある方を把握し、『地域の応援団』バンクへ登録してもらう。『地域の応援団』が活動できるフィールドを把握・発掘する。

### 👉 ステップ③

それぞれのできるごと、やりたいことに合わせてマッチングする。  
積極的に情報提供を行い、『地域の応援団』の活動をサポートする。

### 5年後の姿

『地域の応援団』が認知され、身近な場所で活躍している地域になっています。



## 実施項目2 『応援団』の地域交流会の開催



お住まいの地域の中で、『地域の応援団』バンクにて把握した協力者、地域ボランティア等が交流を深めるとともに、よりいっそう住みよい地域となるよう、今日的な福祉課題からご近所でよくある困りごとまで共通理解できる機会をつくります。

### 👉 ステップ①

地域交流会が果たす役割のイメージを検討する。特定の地域で地域交流会ができる場を検討し、試行実施する。

### 👉 ステップ②

顔の見える関係づくりの機会として、特定の地域で地域交流会を企画・開催する。その場で知り合った者同士が、住み慣れた地域の福祉を考え、学び、共有する会として役立てていき、身近な拠り所となる。

### 👉 ステップ③

横のつながりが充実し、お互い様の関係が構築されるようになり、生活上の困りごとを支えあえるような、ご近所ボランティアの基盤が出来上がる。

### 5年後の姿

地域活動や福祉活動に関心を持つ中高年世代など、個人の活動の幅が広がるとともに、さなざまな活動の担い手が増えています。ボランティアが増加し、地域のグループの活動が多様となっています。



## 実施項目3 セカンドステージセミナーの開催



住み慣れた地域で、これまでの知識や経験を地域に活かし、いきいきとしたセカンドステージを過ごせるようセミナーを開催します。セミナー参加者にボランティア活動や地域活動の経験の有無に関わらず、活動に参加いただけるように情報提供を行います。

### 👉 ステップ①

セカンドステージセミナーの開催内容について、選定した参加対象者の活動参加につながるよう、関係者、有識者、地域のボランティアグループ、団体の意見を聞き、企画内容を検討する。

### 👉 ステップ②

関係機関、団体の協力を得て、セミナーを開催する。  
参加者アンケートにより、情報提供希望者には希望に沿った地域活動や福祉活動のイベント情報、ボランティアニーズ情報等を送付する。活動開始者向けのフォローアップ企画を調整する。

### 👉 ステップ③

ミニセミナーなど、参加対象者の拡大を検討する。

### 5年後の姿

地域活動や福祉活動に関心を持つ中高年世代が増え、高齢者ボランティアが増加し、さなざまな活動の担い手が増えています。個人の活動の幅が広がるとともに、地域のグループの活動が多様となっています。



## 実施項目4 誰でも気軽に立ち寄れるオープンカフェづくり



多世代交流・地域交流・福祉学習など目的別、福祉施設・商業施設・テントなど会場別の多様な集いの場を地域の皆さまに提案し、想いを受け止められる場を作ります。また、子育て、健康や介護予防、障がいなどの福祉に関する話題の他、防災・防犯など暮らしに必要な情報提供を行います。

### 👉 ステップ①

中川区内のマップから誰もが気軽に立ち寄れる場所（公園、東屋、お寺、移動図書館・児童館、商業施設等）をピックアップする。すでに人が集まる場所などを探す。

### 👉 ステップ②

いろいろな人が興味を持って出かけてくれそうなブースをたくさん設けて、あらゆる情報を得られる場所、想いを受け止められる場所にするため、地域の応援団や関係機関と協働し企画・実施していく。

### 👉 ステップ③

オープンカフェを様々な場所で開催し、オープンカフェでの出会いをきっかけに、地域のサロンにつなげたり、様々な活動をスタートできるようにフォローアップする。

### 5年後の姿

身近な地域でいろいろな世代の方が、つながりたいときにつながることができ、必要な情報を得たり、想いを受け止めてもらえる場所が、地域の身近にあるようになっています。



## 実施項目 5 ふれあい・いきいきサロンの支援



住民主体で行うサロン実践者の交流会を開催し、誰もが気軽に参加できるサロンの活性化を図るとともに、サロン実践者の意見などを参考にさらなる普及啓発を図ります。また、ボランティアや専門職による相談なども、要望に応じて調整します。

### 👉 ステップ①

各サロンが抱えている問題を把握するための取り組みをすすめるため、アンケートの実施などを検討する。

### 👉 ステップ②

①で収集した情報を分析し、サロン交流会の実施内容を検討。また、サロンが必要とする情報・社会資源を模索する。

### 👉 ステップ③

サロンが“持続可能で発展性のあるもの”になるためにを主眼においたサロン交流会を実施する。

### 👉 ステップ④

他事業、他機関、企業と連携し、サロン運営の新たな担い手の育成を間接的に支援する。

### 5年後の姿

サロンが持続可能なものになるよう、充実した支援体制ができています。



## 実施項目 6 福祉専門職が連携できる環境づくりと協働



区内の児童・障がい・高齢分野などの専門職が会し、生活困窮、ダブルケア、8050問題など単一分野では解決できない問題について学び、円滑な連携を図ります。また、協働により住民から多様な福祉相談に応じられるような仕組みづくりを進めます。

### 👉 ステップ①

複数分野の専門職向け講習会を開催するなど、年1回程度の専門職が直接会する機会をつくる。また、既存の活動や計画実施項目を通じて、専門職と住民組織との顔の見える関係づくりを進める。

### 👉 ステップ②

住民への支援等を通じて、多職種連携により解決できた事例や専門職が抱える困りごとや連携の問題点・障壁を把握し、課題提起あるいは必要に応じて支援方法を検討する。

### 👉 ステップ③

専門職への側面的支援事業の実施あるいは仕組みづくりを行う。また、多職種連携の進展により住民が安心して生活できるよう相談体制を整理する。

### 5年後の姿

複数分野の困りごとを抱える世帯への支援方針を専門職が共有できています。また、地域住民の困りごとに応じて、専門職の相談体制を整えることができています。



# 進 行 管 理 ・ 評 価

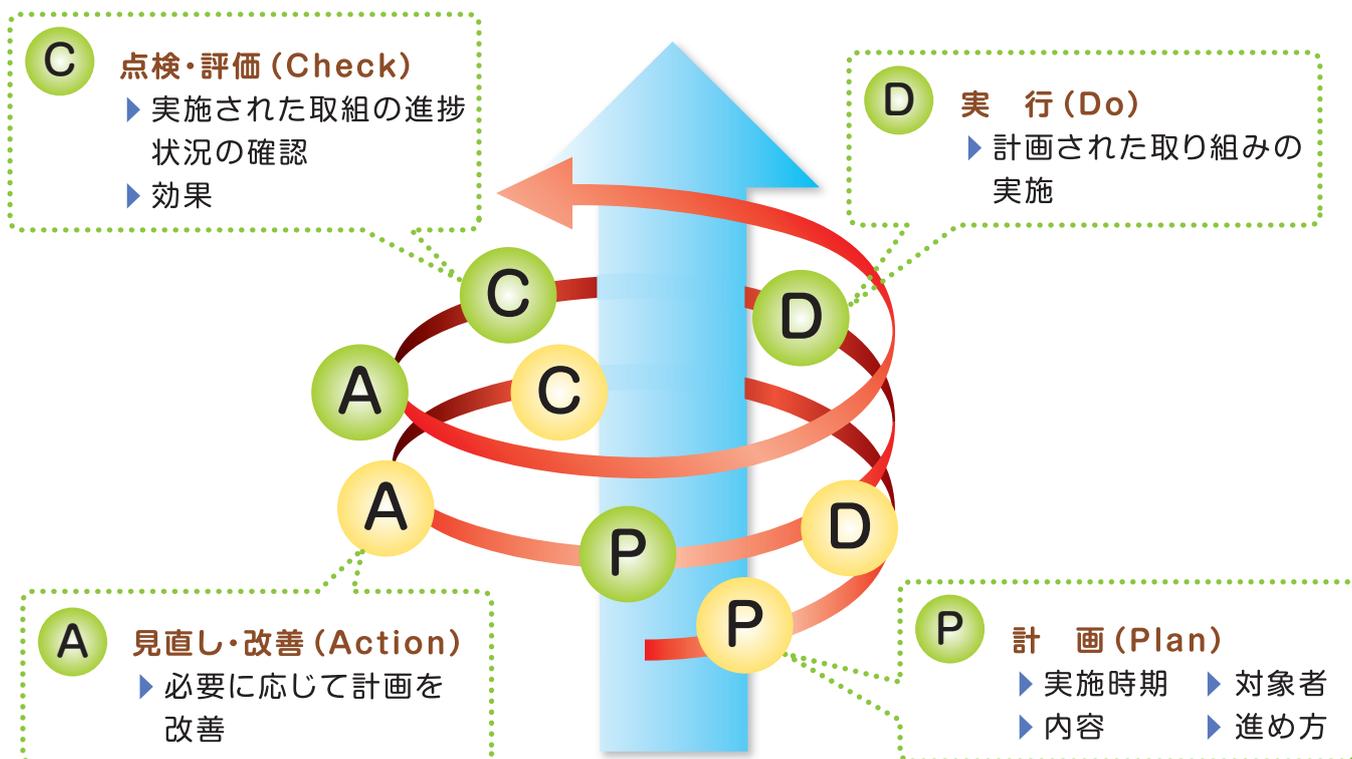
## 推進・評価体制について

基本目標達成に向けて実施項目を着実に推進していくために、策定に関わった委員等を中心に『推進委員会』を設置し、具体的な取り組みへの関与と計画全体の進捗状況の確認・評価などを行います。

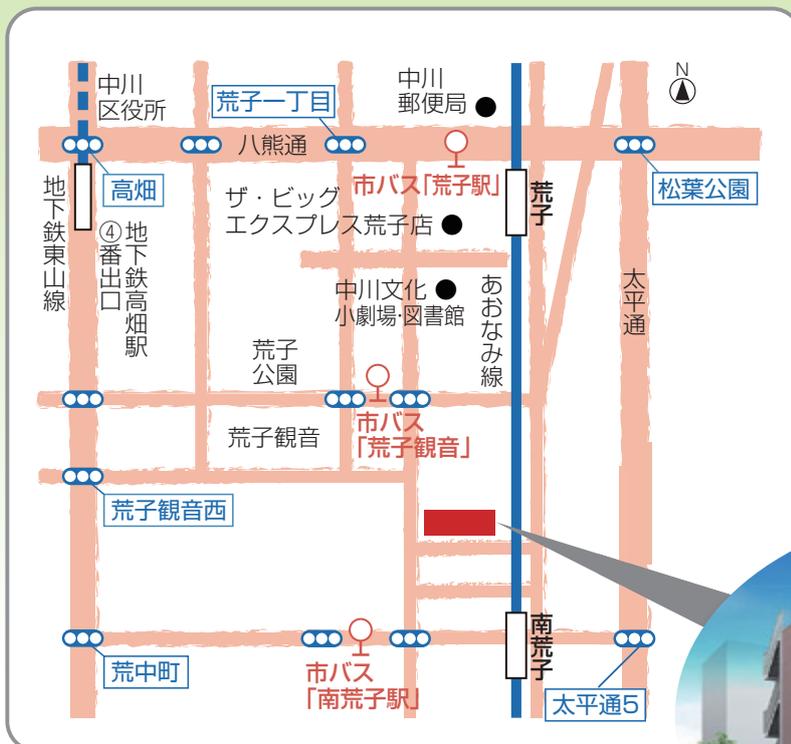
その進め方については、原則として年度ごとに計画（Plan）→実行（Do）→点検・評価（Check）→見直し・改善（Action）のPDCAサイクル（下図参照）により行い、実情に応じた弾力的な進行を行います。また、計画5年目には次期計画の策定が予想されることから4年目に全体評価に着手するなどし、次期計画策定作業への意見反映を行います。

## PDCAサイクルのイメージ

### 中川区の目指す福祉のまちづくり



# アクセスマップ



中川区在宅サービスセンター

(「西部児童相談所」と合築)



あおなみ線「荒子」市バス「荒子駅」下車……………南へ徒歩約8分  
 あおなみ線「南荒子」市バス「南荒子駅」下車……………北へ徒歩約5分  
 市バス「荒子観音」下車……………徒歩約4分

## 中川区社会福祉協議会とは

社会福祉法で位置づけられた中川区の地域福祉を推進する団体です。

地域の区政協力委員会、民生委員児童委員協議会を

はじめ地域の各種団体、ボランティア、施設などを

会員とし、地域住民の皆さんと協力しながら

誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりに取り組んでいます。

(2019年 5月発行 3,000部)